

必修の基本的事項

大項目	中項目	小項目	
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療	
		b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い	
		c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守	
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン	
		b 患者の権利と義務	
		c 自己決定権	
2 社会と歯科医療 約2%	ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題	a 疾病・障害の概念・構造(社会的関わり)	
		b QOL<生活の質、quality of life>	
		c リハビリテーションの理念	
		d ノーマライゼーション、バリアフリー	
		e 患者・障害者の心理と態度	
		f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH>	
		g ニーズとダイヤモンド	
	イ 歯科医療の社会的背景	a 健康意識、疾病構造	
		b 国民医療費	
	ウ 保健・医療・福祉・介護の制度	a 歯科医師法	
		b 歯科衛生士法	
		c 歯科技工士法	
		d 薬事法	
		e 医療法	
		f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種	
		g 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度	
	エ 臨床試験・治験と倫理	a GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>	
		b 臨床研究、疫学研究の倫理指針	
	3 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a 概念
			b プライマリーヘルスケア、アルマ・アタ宣言
			c ヘルスプロモーション、オタワ憲章
d 健康日本21			
e メタボリックシンドローム			
f 行動レベル、行動変容			
イ 地域保健		a 地域保健法、地域保健体制	
		b 健康増進法	
		c 歯科口腔保健の推進に関する法律	
		d 8020運動	
		e 健康危機管理	
ウ 母子保健		a 歯科健康診査(妊産婦、1歳6か月児、3歳児)	
		b 妊産婦・乳幼児の保健指導	
エ 学校保健		a 保健教育・保健管理の概要	
オ 産業保健		a 労働者の健康管理、トータルヘルスプロモーションプラン<THP>	
カ 成人・高齢者保健		a 特定健康診査、特定保健指導	
		b 健康増進事業、歯周疾患検診	
		c 介護予防(地域支援事業、予防給付)	

大項目	中項目	小項目
	キ フッ化物応用	d 福祉、介護保険
		a 全身的応用
		b 局所的応用
	ク 保健指導	c 安全性
		a 栄養と食生活
		b 喫煙、飲酒
		c ストレス、運動
	ケ 口腔清掃	d 生活習慣病
		a 機械的・化学的プラーク<口腔バイオフィルム>コントロール
		b プラーク形成機序・付着抑制
	コ 口腔のケア	c 口腔清掃行動
		a 口腔衛生管理のための口腔のケア
		b 口腔機能維持向上のための口腔のケア
4 歯科医療の質と安全の確保 約7%	ア 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書
		c 診療録開示
		d クリニカルパス
	イ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護)
		d 医療者の安全管理(感染、針刺し事故、外傷、被曝、目の保護)
		e 医療危機管理<リスクマネジメント>
		f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート
		g 医療安全対策(医薬品・医療機器の安全管理)
	ウ 院内感染対策	a スタンダードプレコーション<標準予防策>
		b 抗菌薬の適正使用と薬剤耐性菌
c 医療廃棄物処理		
d 院内感染対策委員会		
エ 医療裁判	a 医事紛争、賠償	
	b 医療訴訟(刑事裁判、民事裁判)	
オ 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応(報告義務、治療、補償)	
カ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理	
5 診療記録と診療情報 約2%	ア 診療録、医療記録	a 診療に関する記録(診療録、同意書、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)
		b 診療録の管理・保存
		c SOAP(主観的情報、客観的情報、評価、計画)
	イ 診療情報	a 個人情報保護
		b 診療情報の開示
	ウ 診断書	a 診断書、死亡診断書

大項目	中項目	小項目	
6 人体の正常構造・機能 約14%	ア 全身の構造・機能	a 遺伝子、染色体	
		b 細胞・細胞内小器官の構造・機能	
		c 組織(上皮組織、支持組織(血液を含む)、筋組織、神経組織)	
		d 生体構成成分の構造・機能	
		e 器官系(骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系<脈管系>、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)	
		f 免疫(自然免疫、獲得免疫)	
	イ 口腔・顎顔面の構造・機能	a 口腔の構造(口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口(腔)底、唾液腺、頬、口唇、口峽、歯列)	
		b 口腔の機能(咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発声と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚)	
		c 唾液の種類	
		d 頭部の筋(表情筋・咀嚼筋の種類)	
		e 頭蓋を構成する骨(神経頭蓋、内臓頭蓋)	
		f 頭頸部の神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)	
		g 頭頸部の動脈(総頸動脈、外頸動脈、内頸動脈、舌動脈、顔面動脈、顎動脈)	
		h 顎関節の構造(下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靭帯)	
	ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能	a 歯の形態(歯種の鑑別)	
		b 歯式	
		c 歯の構造・組成	
		d 歯周組織の構造・組成(根尖歯周組織、辺縁歯周組織)	
		e 歯髄の感覚	
		f 歯根膜の感覚	
		g 歯・歯周組織が受ける力	
	エ 口腔の生態系	a 常在微生物叢	
		b 食品の影響	
		c 唾液の作用	
		d プラーク<口腔バイオフィルム>	
	7 人体の発生・成長・発達・加齢 約7%	ア 人体の成長発育	a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
			b 発育期の特徴
c 成長発育・発達の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)			
d 小児の生理的特徴			
e 身体成長と精神発達の評価法(Kaup指数、Rohrer指数、BMI、暦年齢、生理的年齢、発達スクリーニング検査)			
イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育		a 歯・歯列の成長発育(歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)	
		b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴	
ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化		a 歯の変化	
		b 歯周組織の変化	

大項目	中項目	小項目
		c 顎骨・顎堤の変化
		d 顔面の変化
		e 歯列・咬合の変化
		f 顎関節の変化
		g 筋の変化
		h 神経系の変化
		i 口腔粘膜の変化
		j 唾液腺の変化
	エ 歯の喪失に伴う変化	a 形態的变化
		b 機能的変化
8 医療面接 約4%	ア 意義, 目的	a 医療情報の収集・提供
		b 患者歯科医師関係の確立
		c 患者の指導、動機付け、治療への参加
	イ 面接のマナー	a 身だしなみ
		b 挨拶、態度
		c 会話のマナー、言葉遣い
		d コミュニケーションの進め方(質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション)
		e プライバシーの保護
		f 感情面への対応
	ウ 病歴聴取	a 主訴
		b 現病歴
		c 常用薬、アレルギー歴
		d 既往歴
		e 家族歴
		f 患者背景(生活習慣、喫煙歴、社会歴)
		g 患者・家族の考え方・希望
9 主要な症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとらえ方	a 口腔・顎・顔面の一般的症候(疼痛、腫脹、腫瘍、色調の変化、熱感、出血、瘻、硬さの異常、触覚の異常、機能障害)
		b 歯の症候(齶蝕、硬組織欠損、変色、亀裂、破折)
		c 歯髄の症候(自発痛、誘発痛)
		d 根尖・辺縁歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候(形態の異常)
		h 顎関節の症候(関節痛、関節雑音、運動障害)
		i 筋の症候(圧痛、運動麻痺)
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候

大項目	中項目	小項目	
	ウ 全身的疾患による主な口腔症状	l 感覚異常(味覚、体性感覚)	
		a 貧血による舌炎	
		b 出血性素因による歯肉出血・抜歯後出血	
		c 急性白血病による歯肉出血・腫脹	
		d 後天性免疫不全症候群<AIDS>によるカンジダ症・歯周病	
		e ウイルスによるアフタ性潰瘍	
		f 結核・梅毒による粘膜潰瘍	
		g 金属によるアレルギー性変化(苔癬様病変)	
		h 糖尿病による口腔乾燥・歯周病の増悪	
		i ビタミン欠乏による歯肉出血	
		j 臓器移植に関連した口腔症状(免疫抑制、移植片対宿主病<GVHD>)	
		k 脳血管疾患、神経筋疾患の摂食・嚥下障害	
		l 他臓器癌の口腔症状	
	m 認知症患者の口腔症状		
	エ 薬物の有害事象による口腔症状	a 多形{滲出性}紅斑・歯肉肥厚<歯肉増殖>・歯の着色・唾液分泌量減少・唾液分泌量増加・味覚異常・顎骨壊死・抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象<菌交代症>	
	10 診察の基本 約4%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
			b プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮
			c 自己紹介、患者の確認
			d 患者への説明
e 患者への声かけ・例示			
イ 基本手技		a 視診	
		b 触診	
		c 打診	
		d 聴診	
ウ 診察時の体位		a 患者の体位	
		b 術者の姿勢・位置	
エ 口腔診察用器材の準備と選択			
オ 全身の診察		a 全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、発声)	
		b 意識状態、精神状態	
		c バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧、体温)	
カ 口腔・顎・顔面の診察		a 顔貌の対称性、顔色、皮膚	
		b 口腔粘膜	
		c 所属リンパ節	
		d 唾液腺	
		e 下顎運動	
キ 歯列・咬合状態の診察		a 歯列弓の形態・大きさ	
		b 前歯部の被蓋	
		c 臼歯部の咬合状態	
ク 歯・歯周組織の診察		a 歯の所見	
		b 歯髓の症状	
		c 根尖・辺縁歯周組織の症状	

大項目	中項目	小項目	
	ケ 心理・社会的側面についての配慮	a 患者の心理・社会的側面・性格の把握 b 家族背景	
11 検査の基本 約10%	ア 意義、目標	a 診断 b 治療経過の評価 c 医療情報の収集	
	イ 検査の安全	a 患者・検体の確認 b 実施(必要性)の説明 c 検査の合併症	
	ウ 検体検査の種類	a 一般臨床検査(尿、穿刺液、関節液) b 血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈 c 生化学検査(糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン) d 免疫血清学検査(抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断) e 微生物学検査	
	エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査	a 歯の検査(硬組織、歯髄) b 根尖歯周組織の検査 c 辺縁歯周組織の検査 d 顎関節の検査 e 筋の検査 f 唾液腺の検査 g 味覚の検査	
	オ 画像検査	a エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線検査、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)	
	カ 病理検査	a 細胞診 b 組織診	
	キ 結果の解釈	a 病歴との関連(既往歴・投与薬物との関連) b 症候との関連	
	12 臨床判断の基本 約2%	ア 根拠に基づいた医療<EBM>	a 意義 b 齶蝕予防法の評価 c 歯周病予防法の評価
		イ 基準値	a 基準範囲の概念 b 生理的変動 c 性差、年齢差
		ウ 有効性、効率性	a 効率とリスク b 費用対効果
	13 初期救急 約1%	ア 救急患者の診察	a 全身的偶発症の原因推定 b バイタルサインの把握 c 意識障害の評価 d 病態・疾患の鑑別 e 重要臓器の機能状態の把握
イ 救急処置		a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血	

大項目	中項目	小項目
		b 救急処置を要する症状(失神、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥)
14 主要な疾患と障害の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念	a 健康・疾病の概念
		b 先天異常、発育異常
		c 損傷
		d 炎症
		e 感染症
		f 嚢胞
		g 腫瘍
		h 循環障害
		i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽
		j 病的増殖
		k 精神・神経疾患
		l 放射線の影響
		イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患と障害の概念
	b 歯髄疾患	
	c 根尖性歯周組織疾患	
	d 歯周病	
	e 不正咬合	
	f 咬合・咀嚼障害	
	g 免疫異常	
	h 先天異常、発育異常	
	i 損傷	
	j 炎症性疾患	
	k 嚢胞	
	l 腫瘍、腫瘍類似疾患	
	m 顎関節疾患	
	n 口腔粘膜疾患	
	o 唾液腺疾患	
	p 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因	
	q 薬物・放射線による有害事象	
	r 神経疾患、心因性病態	
s 摂食・嚥下障害		
15 治療の基礎・基本手技 約12%	ア 意義, 目標	a 疾患の治療、自然治癒
	イ 種類, 特性	a 原因療法、対症療法
		b 保存療法、根治療法
	ウ 治療の適応・選択	a 適応
		b 禁忌
	エ 治療の場	a 外来
		b 入院
		c 施設
		d 居宅
		e 地域
f 隔離		
オ 使用器材、取扱法	a 基本的器材	

大項目	中項目	小項目
カ	乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境
		b 患者の体位
		c コミュニケーション
		d チーム医療
キ	器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット
		b エックス線撮影装置
ク	消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作
		c 手術室
ケ	注射法の種類	a 皮内
		b 皮下
		c 筋肉
		d 静脈
コ	麻酔法	a 局所麻酔(局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症、偶発症)
		b 全身麻酔(吸入麻酔法、静脈麻酔法)
		c 精神鎮静法(吸入鎮静法、静脈内鎮静法)
サ	創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
シ	膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
ス	抜歯	a 基本的術式
セ	歯の切削	a 基本的術式
ソ	歯の硬組織疾患の治療	a 基本的術式
タ	歯髄疾患の治療	a 基本的術式
チ	感染根管の治療	a 基本的術式
ツ	根尖性歯周組織疾患の治療	a 基本的術式
テ	歯周病の治療	a 基本的術式
ト	歯質・歯の欠損による障害の治療	a 基本的術式
ナ	不正咬合の治療	a 基本的術式
ニ	印象採得	a 基本的術式
ヌ	顎間関係の記録	a 基本的術式
ネ	咬合器	a 種類
		b 基本的使用方法
ノ	歯科鑄造	a 鑄造法の基本的術式
ハ	合着・接着法	a 基本的術式
ヒ	薬物療法	a 薬物作用の種類(局所作用、全身作用、直接作用、間接作用)
		b 薬物の適用方法
		c 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)
		d 薬物の効果に影響する因子(年齢、個体差、種差、性差、プラセボ効果)
		e 薬物の作用部位

大項目	中項目	小項目
		f 薬物の反復投与
		g 用量と薬理作用(LD ₅₀ 、ED ₅₀ 、治療係数<安全域>、TDM<therapeutic drug monitoring><薬物の血中濃度モニタリング>)
		h 薬物の併用(協力作用、拮抗作用)
		i 薬物の副作用・有害作用(薬物アレルギー(アナフィラキシーショック)、皮膚障害、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、呼吸器障害、中枢神経障害)
		j 薬物投与上の注意(禁忌、小児、妊婦、高齢者、全身疾患を有する患者)
		k 薬物の保管・管理
	フ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養(経腸栄養、胃瘻<PEG>)
	ヘ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復(咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能)
		b 口腔機能管理
		c コミュニケーションと社会参加
	ホ 患者管理の基本	a 口腔環境の評価(口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態、唾液、味覚)
		b 全身管理に留意すべき疾患・対象(気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳内出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症<GERD>、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群<AIDS>、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症>)
		c 日常生活動作<ADL>の評価
	マ 歯科材料	a 基本的性質
		b 印象材
		c 模型材
		d 修復用材料
		e 合着・接着材
		f 義歯用材料
		g 予防填塞材
h 歯内療法用材料		
i 切削・研削・研磨用材料		
16 チーム歯科医療 約2%	ア 医療機関でのチームワーク	a 歯科医師・医師間
		b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間
		c 多職種連携
	イ 地域医療でのチームワーク	a 病診連携
		b 診診連携

大項目	中項目	小項目
		c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
		d 家族との連携
		e 地域連携クリニカルパス
	ウ チームワーク形成	a リーダーシップ
		b チームの調整技能
	エ コンサルテーション	a 自己責任と自分の限界
	オ 社会生活	a 社会復帰
		b 社会保障制度(所得、介護、障害)
		c 人的支援
		d 物的支援(福祉用具)
e 社会的支援		
f 自立		
17 一般教養的事項 約4%	ア 医学史、歯科医学史	
	イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方	
	ウ 歯科医療に必要な基本的医学英語	